

子どもさんからの臓器提供 ～意思の尊重～

家族の同意があれば本人の同意が無くても移植することについて、頂いた資料を読んで気付いたことがあります。それは周りの空気についてです。子どもの脳死を受け入れドナーとなることを承諾することは、たくさんの人に感謝されるし、すごい事だと思います。しかし、意思表示の出来ない子供のドナーとなることを決める人が多くなればなるほど助かる人が増えます。でも同時に、その空気が“ドナーとならないといけない”と思わせるかもしれないということを忘れないようにしたいと思いました。そのためにドナーカードの活用や家族、大切な人との話し合いというのが重要になると私は考えます。

小児や認知症患者など、特に自分の意思を伝えることができず、延命という部分についてあいまいになることが多いということを感じました。自分が卒業後進もうと思っている分野は老年看護であり、特に認知症患者が多いです。そうした中で、患者の意思をしっかりと汲み取って、患者本人と家族にも納得してもらえらる援助を行っていきたいと思います。

子どもさんからの臓器提供 ～意思の尊重～

新聞記事(注釈;子どもの意思を尊重すべき意見)にもあったように、小児や意思表示できない大人の意思表示のない方についての問題で、記事について納得できた。子どもの提供では両親が決めることは意思の尊重に反していると思う。意思表示のある方に対しては、家族と意見の相違があっても患者本人の意思を尊重するのに、表示が無いと家族の意見で進められると、どっちに権限があるのかわからない。私たちは、何よりも患者本人の意見を尊重して・・・と学んでいるが、意思表示の有無の問題になると本当に難しくなってくるなあと思った。人の「命」に関する問題について、もっとよく考えていかないといけないことだと改めて感じた。

提供する側が子どもだった場合、家族に臓器提供の決定権が委ねられる。もし提供を選択するのならその子どもの尊厳は守られているのか、成長段階にある患者の状態や予後についても十分に検討していき、その結果がきちんと患者・家族に説明され同意された上での選択であるのかを考えていく必要があると学んだ。